

令和2年度学校自己評価システムシート (県立上尾鷹の台高等学校)

目指す学校像	「志、高く。思い、深く。夢、羽ばたく」学校
--------	-----------------------

重点目標	1 進学・就職ともに質の高い進路を実現できる生徒を育む。 2 高い「志」を持ち、多くの事に積極的に挑戦するたくましい生徒を育む。 3 安心安全、清潔な学習環境の中で、温かくも規律ある学校文化を醸成する。 4 地域との絆を深化させ、さらに信頼され愛される学校づくりに努める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	10名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の高い生徒が増え、落ち着いた学習環境が保たれている。臨時休業による授業不足を計画的に補完し、基礎学力を保障して教育の質を高めるための授業改善をより一層進める必要がある。 進学・就職ともに希望達成率が向上している。今後は、より生徒の自己理解を深めさせ、適性に合った主体的な進路選択とその実現に向けた指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的・自主的に学習できる環境を整備するとともに、授業確保に努め、校内研修や機材の整備拡充により教員の授業改善への意欲を向上させる。 生徒の適性に合った進路を実現させ、本校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントに基づいた教育課程編成と教育の質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題テスト・学びの基礎診断で学習状況を把握し、基礎学力定着に向けたPDCAサイクルを確立する。 自主学習教材(スタディサプリ等)を活用するとともに、在宅学習を可能にする環境を整備する。(Google Classroom等) ICT機器の利活用、対話的授業の実践を拡大する。 生徒・保護者の進路希望を的確に把握し、キャリアパスポートの活用など系統的なキャリア教育に取り組む。 資格取得試験の積極的活用。 地域における本校の役割をふまえた教育課程の編成。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業理解度・学校満足度・学習意欲は向上したか。(生徒・教員及び保護者アンケート) 自主学習教材は適切に活用されたか。在宅学習の環境は整ったか。 ICT機器の利活用は増えたか。主体的・対話的で深い学びが実現できたか。 各学年におけるキャリア教育は充実していたか。進路達成率は100%か。(生徒・教員及び保護者アンケート) 資格取得試験受験者の増加。 目指す学校像に適う教育課程を編成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業理解度 (生徒) 83.1%(+8.1) 学校満足度 (生徒) 78.0%(-7.2%) (職員) 80.5%(-2.1%) 学習意欲の向上 (生徒) 64.7%(+11.8%) ※「そう思う」「大体そう思う」の割合。以下同じ ICT活用及び郵送により、すべての生徒の在宅学習を実現。 各HRでICT利用による集会を実施(始業式・終業式・講演会等) 進路実現への積極的取組 (1年) 70.4% (2年) 63.2% (3年) 83.2% 進路・適性に合った科目選択 (1年) 92.7% (2年) 86.8% (3年) 89.2% 進路達成率(3年次) 95.2% 教育課程委員会を開催(5回)、新教育課程を編成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染対策と学校の教育力(学校らしさ)の回復の両立を図る。 教職員・生徒ともにICT機器活用スキルを維持・向上させ、非常時の学習支援体制を確立する。 コロナ禍における主体的学習の在り方を、研修等により組織的に研究する。 新型コロナの影響により、未実施の資格試験が多くあった。実施方法を検討する。 3年間を通じた長期的な進路・キャリア教育指導計画の立案。 新教育課程及び観点別評価についての研究の継続。
2	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止に十分に配慮しつつ、学校行事を維持・精選しながら生徒会活動・部活動の活性化を図り、生徒の自主性や帰属意識、自己肯定感やコミュニケーションスキルを高めていく方策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 困難な状況にあっても高い「志」を持ち、周囲との調和を保ちながら、確実に努力を継続できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自他の安全に配慮しつつ、生徒会活動や部活動に積極的に取り組める環境を整備。 部活動の魅力化と参加者の増加 「ようよう夢プラン特別講座」や体験活動の維持・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事に意欲的に取り組んでいる生徒が増えたか。部活動に主体的に取り組んでいるか。(生徒・教員及び保護者アンケート) 「ようよう夢プラン特別講座」への参加者が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動参加率(全体) 66.4%(-4.8) (1年) 85.1% (2年) 72.7% (3年) 39.1% 部活動への主体的取組 (1年) 83.2% (2年) 86.7% (3年) 94.8% ようよう夢プラン特別講座を開催。参加生徒 17名(開催は1回) ※学校行事は中止が多く、集計せず 	B	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある部活動の在り方を、部活動指導の基本方針に基づき研究し、部活動参加者の増加につなげる。 新型コロナ感染拡大に備え、ICT機器を活用した文化行事等の開催方法について研究する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 従来の悩みや困難を抱える生徒に加え、新型コロナウイルスによる生活不安、精神不安を抱える生徒・保護者の増加が予想される。外部機関と連携した組織的対応が求められる。 学校再開を見据え、規律ある生活・基本的生活習慣を確立させるとともに、周囲の健康に配慮する、交通マナーを順守するなど、社会の一員としての自覚を高める指導が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談・支援体制を確立し、生徒の不安を軽減するとともに、外部機関に適切に接続させる。 家庭と連携し、生活習慣の改善と規範意識の向上を図る。差別やいじめをしない、同調しない人格を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の悩みに寄り添い、情報共有により多面的な生徒理解を深める。教職員研修を実施する。 巡回指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図り、組織的対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 悩みや課題を抱える生徒への効果的な支援ができたか、課題が解決したか。 校内組織が有効に機能したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会を14回開催。 教職員研修会を実施(11/18) 特別支援巡回指導7回(計8回予定) SC・SSWとの面談24回 特別支援教育コーディネーターによる情報交換を実施(特別支援学校との連携) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題を抱えた生徒について、職員間での情報共有をさらに進め、より一層、職員全体で適切な対応を可能とする体制づくりを進める。
4	<ul style="list-style-type: none"> 例年通りのPTA活動や地域連携事業の実施は困難が予想される。教職員と保護者、学校と地域の信頼関係をどのように維持・発展させていくかを検討する必要がある。適切な情報発信により、本校の地域における役割をアピールし、「入りたい学校」として選ばれ、愛される学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携、地域との信頼関係を深め、生徒が誇りをもって通学できる学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動・行事の精選と効果的な実施。 学校説明会・部活動体験会の効果的な開催。 学校ホームページの充実と安心安全メールを用いた適切な情報提供。 地域ボランティア活動への生徒の積極的参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の本校への信頼、満足度は高まっているか。(保護者アンケート) 本校を希望する受験者は増えたか。志願率が上がったか。 ホームページへのアクセス数、LINE@の登録者数は増えたか。 地域ボランティアへの生徒参加数は増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力伸長(保護者) 64.7%(+2.0) 教員の生徒理解(保護者) 58.1%(-10.7) 教育活動への満足(保護者) 80.5%(-1.9) R3年度進学希望者倍率(12/1調査) 1.38倍(+0.24) LINE@登録者数 641名(+123) 学校説明会参加(1/31現在)(中学生) 575名(保護者) 250名以上 安心安全メールによる情報提供(保護者宛) 49回 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響で、文化祭及びPTA行事、地域との交流事業のほとんどが実施できず、学校説明会は回数を減らし、会場を分散させて開催。次年度は、実施・開催方法を工夫し、感染予防と教育活動の両立を一層進めていく必要がある。 指導方針を保護者に丁寧に説明し理解を得るとともに、指導内容について校内で検討を行う。

学校関係者評価
実施日 令和3年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 評価アンケートの満足度が、年次が上がるにつれ高くなっており、生徒の成長が読み取れる。 評価アンケート結果で、多くの項目が大幅に上がっている一方、進路意識が低下している。進路決定を見据えた教育課程編成・科目選択指導をお願いしたい。 学習に対して危機感を持たせる指導をお願いしたい。 外部の力を借りた「キャリア教育」を検討してはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> 「ようよう夢プラン特別講座」は生徒を成熟させる契機になる。 コロナ禍にあって、学びを止めない工夫をよく検討されたと思う。 行事の実施について、その目標に応じ、今の時代にできることを検討してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 教育相談や外部機関の連携が活性化している。研修等を通じて、教職員の一層の意識向上を図りたい。 朝の登校・交通安全指導に感謝。働く大人の姿を見せる好機でもある。 いじめや不登校には、油断のない取り組みが求められる。実態把握と、中学校との連携(情報交換)をさらに進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも、進路指導によく取り組んでいる。 学校HPやLINEによる中学生への情報発信はよい取り組みである。 学校のおかれた位置・環境に基づいた地域連携事業(郷土学習等)を検討してほしい。 保護者宛通知等を、評議員にも送信すると学校理解が深まるだろう。